

茶山先生年譜(下)

安在鴻

◇

十三年 癸酉 論語古今註 四十卷이 成하다.

◇

十四年 甲戌 五十三歲 夏 四月에 禁府가 解還코저 하다가 憊人輩에게 沮害되다.

이 해 大東水經, 孟子要義, 大學公議, 中庸自箴, 中庸講義補 等 成하다.

◇

十五年 乙亥 心經密驗, 小學枝言 二書가 成하다.

◇

十六年 丙子 夏 六月(六日)에 三兄 巽菴先生의 訃를 承하다.

◇

春에는 樂書孤存이 成함.

◇

十七年 丁丑 經世遺表, 喪儀節要가 成하다.

◇

十八年 戊寅 五十七歲 春에 牧民心書. 夏에 國朝典禮考가 成하다.

秋 八月에 李泰淳 上疏에 依하야 九月에 茶山을 떠나 十四日에 洸水本 第에 돌아오다. 以上 流配生活 十八 年間이오, 流落함이 十九年이다.

◇

十九年 己卯 欽欽新書, 雅言覺非가 成하다.

◇

二十二年 壬午 六十一歲 『壙銘』을 自撰함.

◇

三十四年 甲午 七十三歲 尙書古訓 『梅氏尙書平』 改正篇이 成하다.

◇

憲宗 二年 丙申(西紀 一八三六) 七十五歲 二月 二十二日 辰時 洸上 正寢에서

卒하다.

同 四月 一日 與猶堂의 後麓 馬峴里 子坐之原에 葬함.



純宗 隆熙 四年 七月 十八日 正憲大夫 諡 文度公을 贈하다.